

## 背景

中心市街地・生活拠点・地域拠点・小さな拠点などの集落をそれぞれコンパクトに形成して地域公共交通等で結ぶ「多極ネットワーク型まちづくり」を推進し、次世代に引き継げる持続可能な都市構造を構築していく必要がある

## ビジョン策定の目的

市民・事業者・行政が「ありたいまちの将来の姿」について**共通認識**を持ち、都市経営の課題達成に連携して取り組むため

## 中心市街地の重要性と活性化の意義

- 経済・サービスを生み出す都市部と、農林業・水産業の基盤ともなっている郊外部は相互に支えあっている関係にあり両立が必須
- 歴史的経緯からも中心市街地は広大な市域の中枢をなすエリアであり、人口密度を高めて公共・民間それぞれの機能を維持・拡充していくことが重要

市民や事業者の声をベースに設定

市民ワークショップ

民間事業者ヒアリング

アンケート調査

# できる うみだす あなたのまちなか

フレイッシュ

ありたいまちの姿

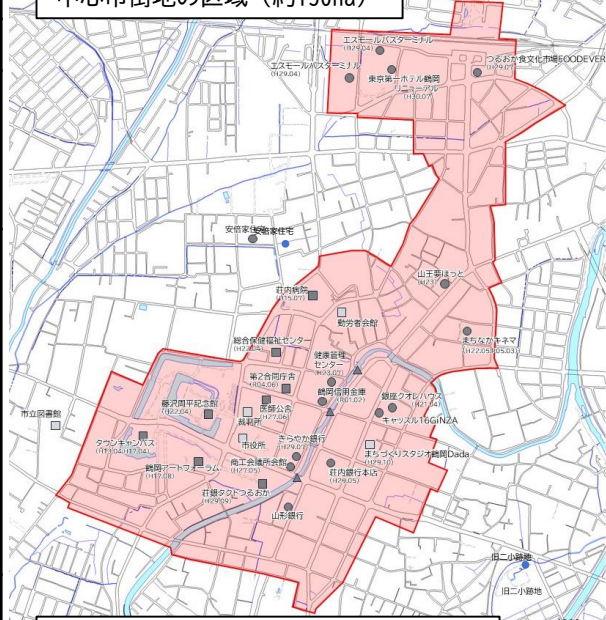
まちづくりの方針

想定する取組例

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
ありたいまちの姿	「おいしい」「たのしい」ができるまち	私のお気に入りの場所を見つけることができるまち	城下の歴史や食を巡る「まち歩き」ができるまち	広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち	気軽におでかけできるまち
まちづくりの方針	まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。	まちなかに、多様な目的で滞在でき、学び・探求・創造性と交流を育む市民の拠点を生み出します。	まちなかに、酒井家庄内入部からの重層的な地域資源等を活用して一日中楽しめる観光エリアを生み出します。	まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。	まちなかに、安全快適な歩行者・自転車空間や、便利な公共交通等によるアクセス環境を生み出します。
想定する取組例	【主要な取組】 地域の魅力を高める企業・店舗等を誘導する仕組の構築	【主要な取組】 新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備	【主要な取組】 鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性を高める歩行者空間の整備	【主要な取組】 空き家・空き地の流動化により多様な住居の選択肢を提供する仕組の構築	【主要な取組】 市内循環バスを核とした公共交通の利用促進

## 概ね15年後のありたいまちの将来の姿を描く

### 中心市街地の区域（約150ha）



### 第3期中心市街地活性化基本計画の策定

- ビジョンに基づき、令和7年度から令和11年度の5年間で優先的に取り組むべきハード・ソフト事業の内容と実施主体、成果指標等を設定する第3期中心市街地活性化基本計画を策定（令和6年度策定予定）
- 併せて、ビジョンで設定した「ありたいまちの将来の姿」について、市民・事業者・行政の共通認識の醸成に向けた周知促進を展開